



2025 年 7 月 24 日

各 位

SE ホールディングス・アンド・
インキュベーションズ株式会社
代表取締役社長 速 水 浩 二
(スタンダード・コード 9 4 7 8)
問 い 合 わ せ 先
執行役員経営企画部部長 松 村 真 一
T E L 0 3 - 5 3 6 2 - 3 7 0 0

【翔泳社】AI 情報専門メディア『AIdiver (エーアイダイバー)』 2025 年 9 月ローンチ決定のお知らせ

当社グループ子会社である株式会社翔泳社（東京都新宿区舟町 5 代表取締役 臼井かおる）は、AX (AI トランスフォーメーション) を推進するビジネスパーソン・企業と共に挑む実践メディア『AIdiver』(エーアイダイバー) を 2025 年 9 月にローンチいたします。

生成 AI の登場以降、AI が急速に社会実装され、AI は単なる効率化ツールではなく、あらゆる産業・職業・ビジネスモデルを根本から変える存在になりつつあります。

『AIdiver』は、AI の本質を深堀することで、AX を実行していくための実践的な知見とリアルな活用事例をお届けします。

<ティザーサイト> <https://aidiver.jp>

当社グループでは、今後もオンラインメディアやイベントなどを通じて、IT 市場、オンライン市場の発展や企業の DX・AX 化に寄与していきます。

◆本件に対するお問い合わせ

株式会社翔泳社

広報担当：石川【 cr@shoeisha.co.jp 】

TEL：080-6746-4289／03-6738-1984

◆IR に関するお問い合わせ

SE ホールディングス・アンド・インキュベーションズ株式会社

経営企画部経営企画課

TEL：03-5362-3700

お問い合わせ - SE Holdings and Incubations Group (sehi.co.jp)

以 上

AI を味方に、次の 10 年を切り拓く。

AX を推進するビジネスパーソン・企業と共に挑む

AI 情報専門メディア『AIdiver（エーアイダイバー）』2025 年 9 月ローンチ決定！

ティザーサイトを本日から公開。特命副編集長に AI 専門家の野口竜司氏が就任！

株式会社翔泳社（本社：東京都新宿区舟町 5、社長：臼井かおる）は、AX を推進するビジネスパーソン・企業と共に挑む実践メディア『AIdiver（エーアイダイバー）』を 2025 年 9 月にローンチします。それに先駆けて本日からティザーサイトも公開。AI 専門家の野口竜司氏を特命副編集長に迎え、メディア運営 20 年の実績と信頼をベースとした質の高いコンテンツ提供を行っていきます。

●ティザーサイト



<https://aidiver.jp>

ティザーサイトよりメールアドレスをご登録いただくと、ローンチに関連する情報を適宜ご案内予定です。

●私たちのミッション

AIdiver のミッションは、劇的に進化する AI 時代において、ビジネスパーソン・企業が AI を味方につ

【本件に関するお問い合わせ先】（献本や取材など、ご相談いただければ幸いです）

株式会社翔泳社 広報担当：石川【cr@shoeisha.co.jp】

〒160-0006 東京都新宿区舟町 5 4 F tel：080-6746-4289／03-6738-1984

け、AX※を実行し次の10年を切り拓くための羅針盤となることです。

AIの世界に深く飛び込み、その本質を深掘ることで、実践的な知見とリアルな活用事例を提供すると共に、私たち自身もAXの当事者となることで、読者の皆様と共に未来を創造します。

※AI Transformation（AI トランスフォーメーション）の略

●コンセプト

AI is Eating the World（AI が世界を飲み込む）——。生成AIの登場以降、AIが急速に社会実装されています。AGI（汎用人工知能）、ASI（人工超知能）といった未来も語られる中、AIは単なる効率化ツールではなく、あらゆる産業・職業・ビジネスモデルを根本から変える存在になるでしょう。

一方で、これまでのIT、直近ではDXの流れを踏まえると、理想と現実の間にはギャップが生まれ、現実の企業活動での導入や活用においては様々な壁にぶつかります。AIdiverでは、壁を乗り越えAIを味方にし、AXを実行していくための実践的な情報を深掘りしてお届け。AI時代の羅針盤となるメディアを目指し、AXを推進する読者の皆さまと共に成長したいと考えております。

●3つの特徴

- ・BtoB フォーカス。企業のリアルなAI活用を徹底解説。エンタープライズAI導入および活用の最前線を深掘りします。
- ・20年のメディア運営で培った取材力とつながりを駆使。翔泳社が運営する10の専門メディアとコンテンツ連携し、多様な視点からAI活用事例をお届けます。

 CodeZine

 MarkeZine

 EnterpriseZine

 ECzine

 BizZine

 CreatorZine

 SalesZine

 HRzine

 EdTechZine

 ProductZine

- ・情報発信だけでなく、自分たちも実践・実行。評論家ではなく当事者として自分たちもAXを実践し、知見を共有。共に成長します。

●コンテンツ

特集：AI時代の羅針盤と実践知

「AIがもたらす未来と企業の現実解」「AIエージェント最新動向」など、次の一手・行動につながる特集を予定。

実践：AI×業界別ケーススタディ

10メディアとの連携により、各業界でのAI活用事例を網羅。各編集者が手掛けたクオリティコンテンツを掲載。

【本件に関するお問い合わせ先】（献本や取材など、ご相談いただければ幸いです）

株式会社翔泳社 広報担当：石川【cr@shoeisha.co.jp】

〒160-0006 東京都新宿区舟町5-4 F tel：080-6746-4289／03-6738-1984

連載：AI Hands-on Leaders

AI を現場で活用し、ビジネスを牽引するリーダーたちにフォーカス。彼らの経験、戦略、そして AI 時代のスキルやキャリア形成について深掘り。

最前線：最新動向ニュース

AWS、Google、Microsoft、NVIDIA、Oracle、Salesforce といった主要企業の動向や、AI エージェント・フィジカル AI など最新トレンドをタイムリーに厳選。

●創刊編集長と特命副編集長のコメント

▼創刊編集長コメント

「diver」には AI の世界に「飛び込む」と、その世界を「深掘る」ことの 2 つの意味を含めました。時代が大きく動いているこのタイミングで最前線に立てることを嬉しく思います。メディアづくりは私たちだけではできません。皆様と共に挑戦を楽しみつつ、価値あるメディア、場所を創っていきたいと思います。ぜひお力をお貸してください！

▼プロフィール

AIdiver 創刊編集長 押久保 剛（おしくぼ・たけし）

立教大学社会学部社会学科を卒業後、2002 年に翔泳社へ入社。広告営業、書籍編集・制作を経て、2006 年スタートの『MarkeZine』立ち上げに参画。2011 年 4 月～2019 年 3 月『MarkeZine』編集長、2019 年 9 月～2023 年 3 月『EnterpriseZine』編集長を務め、2023 年 4 月からはメディア編集部門の執行役員 / 統括編集長に就任。2025 年 2 月に『AIdiver（エーアイダイバー）』を起案し、創刊編集長を兼任。



▼特命副編集長コメント

特命副編集長を拝命しました、のぐりゅうです。AIdiver は AI の連続変化とその影響に深く潜るメディア。AI 駆動の編集・ライティングにも挑戦します！

▼プロフィール

AIdiver 特命副編集長 野口 竜司（のぐち・りゅうじ）

AIX partner 株式会社の代表取締役。三井住友カード株式会社 Head of AI Innovation、株式会社カウネット社外取締役、金融データ活用推進協会 顧問などを務める。事業会社の AI トランスフォーメーション請負人として、生成 AI 戦略・AI プロジェクト推進・文系 AI 塾などによる人材育成などを行う。元 ELYZA 取締役 CMO、元 ZOZO NEXT 取締役 CAIO。著書に「文系 AI 人材になる」「ChatGPT 時代の文系 AI 人材になる」など。



●ロゴ

ロゴタイプ

AIdiver

シンボルマーク

di

ロゴ共通のコンセプトは「深く潜り、価値を浮かび上がらせる」。

AIdiver は、AI という複雑で広大な領域に飛び込み、まだ可視化されていない本質や可能性を掘り起こしていくメディアです。ロゴはその思想を視覚化するために、深度・知性・発信性を核にデザイン。可読性と視認性を担保しながらも、さりげないオリジナリティを散りばめ、専門性と親しみやすさの両立を再現しています。

ロゴタイプは、可読性と安定感のあるタイポグラフィを採用。端正でシンプルな構造を基調としながらも、わずかに丸みを加えることで親しみやすさを持たせ、専門性と親しさの両立を図りました。「di」をモチーフにしたシンボルマークは、AIdiver というメディア名の語源でもある“dive = 潜る”という行為を視覚的に表現しております。「d」単体では他ロゴと類似しやすいため、「i」を加えた2文字構成にすることで独自性を確保。まるで水面に差し掛かり、これから深く潜り始める瞬間を示すような配置とバランスに仕上がっています。